

ユビキタスからホモ・ユビキタスへ (1)

今回の情報誌トピックスの中の日経エレクトロニクスの記事に「すべては、ユビキタスから始まる。」というのがあります。内容としては実は前回までの特集の内容の続きのようなところがあるのですが、今回からこのユビキタスについて連載してみます(実は、前回の連載が始めの思惑とだいぶ違ったものとなってしまう、支離滅裂となってしまうところがあるもので)。

まず「ユビキタス」についてですが、ユビキタス(ubiquitous)はもともと近代ラテン語の「同時にいたるところに(神が)存在する」という意味の(ubiquitas)を語源とする形容詞で、「同時にいたるところに存在する」という性質をあらわしています。情報誌トピックスのところにも書きましたが、私もこれまで見たことの無い言葉でしたので、「？」マークが付いています。インターネットで検索してみたところ、Yahooでも2140件の検索結果となり、これからは一般的になるのではと考えました。現在クローズアップされてきたのは、ユビキタスコンピューティングという用語としてのユビキタスで、次世代の情報通信社会を特徴付けるキーワードとして「ユビキタス」が使われています。ちなみにユビキタスコンピューティングとは家庭、職場や外出先で身の回りにいつでもどこでも情報通信機器があり、それらが生活を支援しているような環境の構築や利用を示す言葉です。この概念は1989年にゼロックスのパロアルト研究所が提唱したものです。この内容はこの研究所が関連したホームページであるubiq.comにそのコンセプトの基本的な考え方が解説してあります。その解説によれば、コンピューティングの世界はメインフレーム中心の第一の波、デスクトップパソコン中心の第二の波、それに続く第三の波がユビキタスという位置付けとなります。つまり、第一の波は1台のコンピュータをいろいろなものに利用している状態で、第二の波は個人がパソコンを使う時代で、第三の波は一人が多数のパソコンを使う時代となります。これは単にコンピュータが身近になったということではなく、コンピュータが生活の中に同化していくことを表しています。ユビキタスの時代になるとコンピュータはさまざまな形で人間の身近に浸透し、知らず知らずのうちにコンピューティングしている社会になると考えられます。どこでもいつでもコンピューティングしていながら、それ自体は生活のバックグラウンド化して「invisible」な状況となります。「invisible」なものがどこでもいつでも存在することから、「神の遍在」としての「ユビキタス」という言葉を使うようになったと考えられます。

ユビキタスコンピューティングに関して最も注目を浴びているのが携帯電話に代表されるモバイルです。携帯電話に限らず、電子手帳、PDAあるいは携帯電話とPDAを一体化した「スマートフォン」が最も有望とされています。さらにモバイルの発展形として、ウェアラブル(着用可能な)コンピュータがあり、一方で本人かどうかを認証することのできる電子認証の機能を持つICカードを個人が所有し、それを軸に情報通信機器間の連携をはかろうとする動きもあります。このように、知らない間に「ユビキタスコンピューティング」という言葉が使われ、いつのまにか情報通信の発達と普及によってITがより身近になっていくということは現実であるということができます。高速なユビキタスネットの登場によって、情報通信ネットワークは、いつでもどこでも生活者を取り巻き、それから生み出される仮想現実が現実社会と地続きとなっていくこととなります。

(次回へ続く)

(情報誌トピックス)

○日経エレクトロニクス 7月2日号

特集 特許は誰のもの

→企業に属する技術者が取得した特許は企業にその所有権がある。しかし、技術者は企業からそれに見合うものを受けているのか。特許について考え直す時期が訪れている。

解説 Bluetoothの次なる一手 無線サービスで活路を開く

→携帯電話やパソコンなどBluetoothを搭載した製品がようやく発売となっている。その中高速化やビデオ会議対応など次世代への取り組みが始まっている。

○日経エレクトロニクス 7月16日号

特集 すべては、ユビキタスから始まる

→通信ネットワークの発達で現実世界と仮想世界の境界を取り外し始め、生活者はときと場所を選ばずに高速なネットワークに接続できる「ユビキタス」なネットワーク環境に身をおく。近い将来歩も・ユビキタスは仮想世界を新しい生活の場所と認識し始める（私にはよくわからない）。

○日経パソコン 7月9日号

特集 パソコン環境改善計画

→うるさいパソコンの音を小さくしたい。使い勝手のいいマウスを使うには。パソコンを掃除してきれいになりたいなど、パソコンの使う環境をどう改善できるか。

特集 先がけ！DVD-Rのすべて

→オリジナルのDVDを作ってみたいなど4.7GB大容量のしひしを作ることのできるDVD-R。でもいろいろな規格があって互換性が無い。それぞれの規格と実際の使い方紹介。

○日経オープンシステム 7月号

特集 企業システム構築法

→企業システムの開発は、開発期間の短期化、データの大規模化、信頼性の追求のほか、ニーズも多様化し、目的毎に異なる知識が必要になってきている。基本部分では普通のノウハウと時代と共に変化するノウハウの両方を押える必要がある。

企画 2階層C/Sからn階層Webシステムへ EUCから情報共有、B to Bへ

→オープンシステムの歴史は、C/Sシステムに始まり、ビジュアル開発ツールによる2階層システム、GUI、機能層、データ層に分けた3階層システムからn階層システムと成りWWWシステムへと変化してきた。その歴史の説明。

○日経ネットビジネス 7月10日号

特集 10人中7人が「EC経験者」

→日本のB to CのECは着実に生活に浸透している。アクティブユーザに対するアンケートの結果では10人中7人が経験者。環境も光ファイバー、常時接続に移行し、インターネットショッピングが一般化してきている。

○DOS/V magazine 8月1日号

特集 超大容量HDDウルトラ攻略法

→HDDの大容量化が止まらない。ギガオーダであったものが100Gを超えようとしている。小さいときは小さいなりに、大容量であればそれなりの使い方があるが、どのドライブが買いで、その使いこなしのテクニックは。

特集 PCトラブルシューター2001年夏版

→PCを使っているのトラブルはあいも変わらずなくならないが、パソコンの性能が変化している中でその内容も対処方法も変わってきている。現時点での対処方法について。

特別企画 ブロードバンド最新事情&FTTH導入記

→YAHOO!BBがADSLに参入し、接続料990円でサービスを始めている。採用の規格はAnnexAでNTTのものと異なり最大通信速度は8Mbpsとなる。あわせてFTTHを実際に引いたときの導入記も掲載。